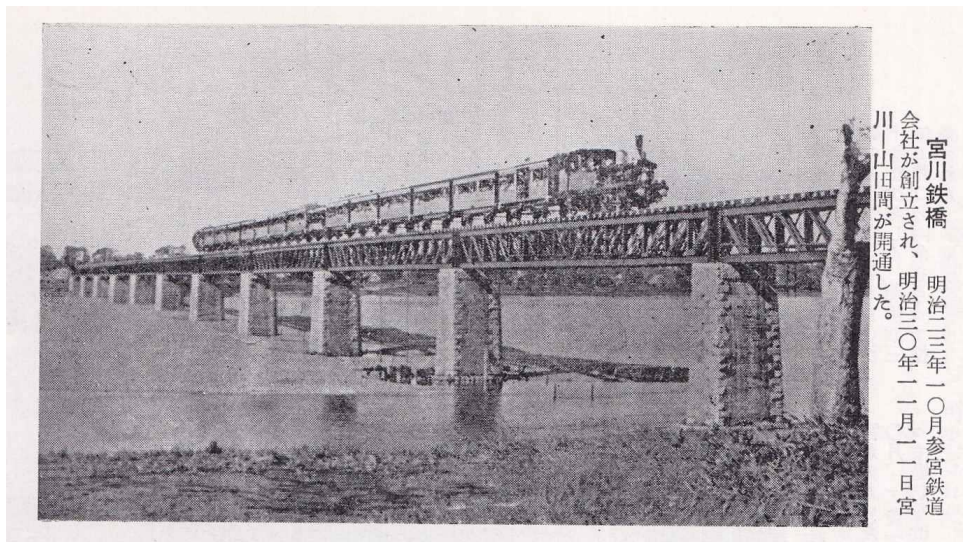


## 関西鉄道⑨ 参宮鉄道

西羽 晃

関西鉄道亀山駅から分岐する津支線は、明治 24 (1891) 年 11 月 4 日に開通した。津は県庁所在地なので早くの開業であった。さらに南へは別会社の参宮鉄道会社 (資本金 55 万円、社長伊集院兼常) が明治 23 年 10 月に設立され、山田までを計画し、津から山田間はほぼ直線の伊勢街道に沿って計画されたが、伊勢街道沿道の住民は街道が寂れることを懸念して、とくに松阪以南では鉄道反対の運動が広がった。そのため松阪からは伊勢街道を離れて、熊野街道寄りのコースとなり、距離も長くなったが、明治 26 年 12 月 31 日に宮川駅まで開通した。



『三重県史』(1964年版)より

宮川に鉄橋が架橋され、山田 (現伊勢市) 駅まで開通したのは、明治 30 年 11 月 11 日であった。参宮鉄道は関西鉄道とは姉妹関係にあり、津駅で乗り継ぎ連絡がなされた。明治 31 年 4 月には山田―京都間の直通列車も運行された。

当時の山田駅の写真（下記）を見ると、一般の乗降客の出入口と別棟の建物がある。皇室などの方々が伊勢神宮を参拝する時のための貴賓用の出入口と思われる。



三重県編『明治百景』2000年発行より

明治30年には三重県の主要都市に鉄道が開通したが、乗車客の変遷を見ると、山田（宮川）、四日市、桑名が多く、次いで津、松阪、亀山である。

各年度		乗車客数					
明治	30年	35年	40年	大正	元年		
宮川	279	桑名	231	四日市	315	山田	566
四日市	192	四日市	228	津	272	四日市	393
桑名	180	山田	218	桑名	272	桑名	341
津	105	松阪	172	山田	168	松阪	258
亀山	96	亀山	130	亀山	152	津	245

『三重県統計書』より 単位：千人、未満切捨て

なお、参宮鉄道は関西鉄道とともに、明治40年10月1日に国有化され、参宮鉄道会社は解散し、路線は参宮線となった。その後の明治44年7月21日に鳥羽まで延長された。